

羽咋駅周辺整備基本構想 概要版

目 次

1	駅周辺地区の現況と課題-----	1
2	構想の基本方針-----	2
3	整備方針及び整備イメージ-----	3
4	今後のスケジュール・方向性-----	4
5	マルシェ跡地利活用方策比較検討-----	5
6	マルシェ跡地利活用検討イメージ図(案)-----	6

平成31年3月

羽 咋 市

1 駅周辺地区の現況と課題

(1) 時代の潮流

- ①人口減少の抑制・少子高齢化社会の対応
- ②安全・安心なまちづくりへの対応
- ③交流人口の拡大への対応
- ④持続可能なまちづくり
- ⑤都市機能の集積
- ⑥「新しい公共」による市民ニーズへの対応
- ⑦ライフスタイルの多様化

(2) 現況特性

①人口

【市と駅周辺地区の人口の現状】

- ・市の人口は平成元年からの 30 年で 23%減少し、特に駅周辺地区では 40%と大幅に減少している。
- ・市全体の老年人口（65 歳以上）は約 30 年間で 20%増加し、37%が高齢者となっているが、駅周辺地区では 42%が高齢者であり、高齢化が進行している。

【市人口の将来展望】

- ・市の人口は、今後 40 年で 60%が減少し、現在の 22,000 人から 8,800 人に減少すると推定される。
- ・人口の長期的展望（2060 年）として、社人研準拠推計値より約 4,000 人多い 13,000 人を目指し、若い世代のためのまちづくりや持続可能な地域づくりを推進



羽咋市の人口・世帯数（住民基本台帳、人口問題研究所）

②駅周辺地区の状況

【土地利用の状況】

- ・駅西既成市街地を中心に空き家や駐車場などの低未利用地が多い。
- ・駅西既成市街地の商店が減少し賑わいが喪失している。
- ・マルシェ跡地は、駅前一等地でありながら長年未利用であり、建物が廃墟化するなど駅前のイメージダウンとなっている。
- ・駅東口へのアクセス路が狭く分かりにくい。
- ・駅東周辺地区は耕作放棄地などの未利用地が点在している。

【都市施設の状況】

- ・既成市街地内にはすれ違いが困難な狭い道路が存在する。
- ・J R 羽咋駅の電車利用者は近年増加しており、バス乗客数は近年減少傾向にある。
- ・駅前道路の交通量は約 2,000 台/12h である。
- ・都市計画道路川原町線、長者川河川改修が未整備である。

【自然・文化的特性】

- ・羽咋神社、本念寺など歴史的な寺社仏閣が存在し、川渡し神事等の伝統文化が今もなお受け継がれている。

(3) 市のこれまでの取り組みや目標

①取り組み

【羽咋駅周辺整備】

- ・駅西広場整備（歩道・アーケード・トイレ整備）
- ・駅東広場整備（ロータリー・駐車場・駐輪場整備）
- ・駅東分譲地整備

②まちづくりの基本目標・基本方針

【がんばる羽咋創生総合戦略・基本目標及び基本的施策】

●羽咋における安定した雇用と魅力あるしごとを創出する

- ・羽咋駅周辺整備による「まちなか」の賑わい創出
- ・継続した企業立地・誘致の推進

●羽咋への新しいひとの流れをつくる

- ・地方移住の支援
- ・羽咋らしい観光地域づくり

●若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える

- ・出産・子育てしやすい環境の整備
- ・きめ細やかな教育・学習機会の充実

●時代に合った持続可能な地域をつくり、地域と地域が連携する

- ・住環境の整備推進、空き家・空き地等の利活用の推進
- ・公共施設の長寿命化と計画的整備
- ・地域における減災・防災体制の充実
- ・健康寿命の延伸による「生涯活躍のまち」の構築
- ・都市機能の集積と市街地の賑わい創出
- ・「地域における足」となる循環型交通の確保
- ・コミュニティの活性化と協働のまちづくりの推進

【都市計画マスタープラン】

《中央部中心地域の将来目標及び基本方針》

羽咋市の顔として、賑わいと魅力にあふれ、安心で快適な中心市街地の創造

●羽咋市の顔としての賑わいと魅力あふれるまちなかの再生

●中心市街地の利便性を高める道路交通ネットワークづくり

●公署等の公共公益施設が集積した、住民の暮らしを守る拠点づくり

(5) 羽咋駅周辺地区の課題

《課題 1》安全・安心に暮らせるまちづくり

マルシェ跡地などの低未利用地の増加や近年の豪雨等により、長者川改修に関心が高く、駅周辺地区において安全・安心の確保が求められている。

《課題 2》まちなかの都市機能の充実や住環境の維持・向上による賑わいづくり

空き家や空き地が増加し、かつての活気が失われている。本市の玄関口として魅力的で賑わいのあるまちづくり、さらに世代間交流など多様なニーズに対応した都市機能の充実が求められている。

《課題 3》少子高齢化や人口減少社会に対応した将来を見据えたまちづくり

今後の人口減少、消費生活等の状況変化に対応できる都市機能の集積と地域特性に合った土地利用が求められている。

《基本コンセプト》

市民とともに つくる・楽しむ・集う 羽咋の玄関口らしい地域交流による賑わい創出

(4) 羽咋駅周辺整備に対する主な意見（アンケート・意見交換会）

基本構想	・将来を見据えた身の丈に合うまちづくり ・まちづくりの方針（ターゲット）を定める ・若い世代との意見交換の場づくり ・住民参加のまちづくり
駅周辺利用状況	・駅を利用しない市民の約 7 割が駅周辺に必要な機能がないと感じており、利用率が低い。
余暇や休日過ごす場所	・半数以上の市民が「買い物」「観光・文化施設」「公園」など、市外で過ごしている。 ・訪れる理由は、「買い物や飲食を楽しめる」「店がまともり様々な用事を済ませられる」など商業に関連する理由が多い。
駅周辺に必要なと思われる機能	・商業…複合施設、飲食店などの整備 ・地域コミュニティ…地域活動の拠点や多世代が集える公民館などの多目的利用が可能な施設整備 ・子育て支援…公園・広場・雨でも遊べる屋内広場の整備 ・教育…学習スペースや図書館、大学等の教育施設の整備 ・交通利便性…駐車場の整備 ・福祉…能登地域にはない医療や介護施設の整備 ・防災…防災拠点となる公園の整備 ・交通基盤…交通結節点としてのインフラ整備
マルシェ跡地	・ターゲットや規模を定める ・若い世代のニーズや需要に合った必要な機能の誘導 ・安全・安心の確保（老朽空き家・アスベスト） ・周辺空き家の活用、出入口の重要性 ・官民連携などの工夫が必要
(都)川原町線長者川	・沿道活用による道路整備 ・安全・安心な河川改修 ・親水空間整備による活性化
商業者	・客数の減少、消費者ニーズの変化を認識 ・一定程度の出店意向やイベント等の参加意欲がある
年齢別	・通勤通学以外は、年齢が低いほど駅周辺を利用しない ・年齢が高くなるにつれ余暇を市内で過ごす人が多い

2 構想の基本方針

《基本コンセプト》

市民とともに つくる・楽しむ・集う

羽咋の玄関口らしい地域交流による賑わい創出

(1) 基本方針

《方針1》 都市防災の機能強化と災害時の避難空間整備

安全・安心に暮らせるよう防災・防犯機能の向上を図る

まちづくりを進める。

- 安全・安心なインフラ整備
- まちなかの一時避難所の確保
- 住民参加による安全・安心な地域づくり
- 周辺住環境の整備推進
- 老朽空き家への対応

安全安心

つくる

《方針2》 子育て世代を中心に多世代が集える場の創出

多世代が集う魅力あふれるまちづくりを進め、

まちなかに賑わいやくつろぎの創出を図る。

- まちなかの賑わいと魅力の創出
- 子育て支援拡充と交流の場の充実
- 多世代交流の場・機会の創出
- 多様な教育や学習機会の充実
- 民間や住民と連携した賑わいの創出
- 市民の日常生活を支える利便性の向上を図る機能の整備促進
- 観光客に魅力のある機能の整備促進

賑わい

楽しむ

《方針3》 将来を見据えた都市機能集積の段階的な推進

将来を見据えた少子高齢化や人口減少社会に対応した

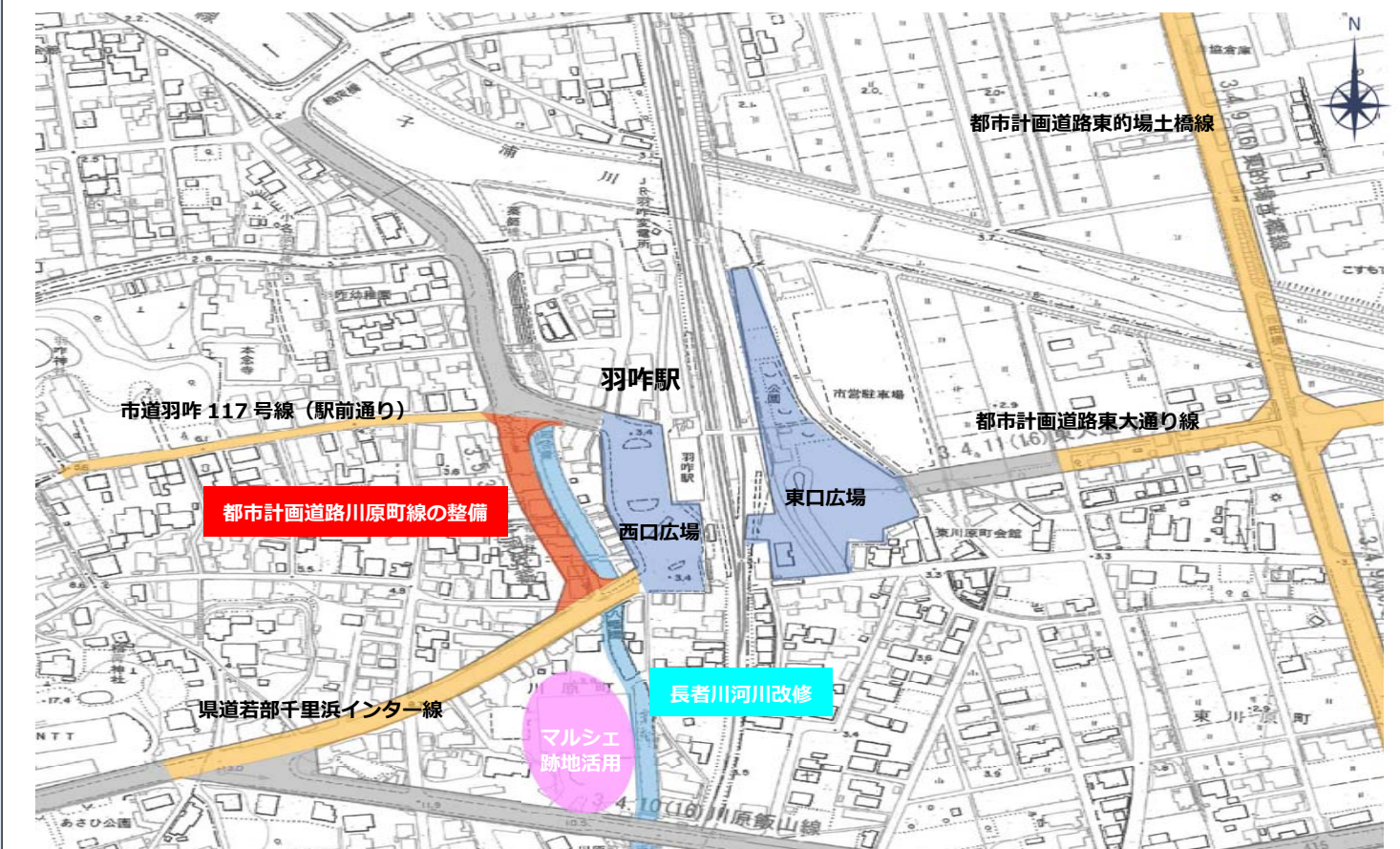
コンパクトなまちづくりを進める。

- 都市機能の集積と公共交通等の連携
- 歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり
- まちなかでの暮らしを支える機能の充実
- 健康寿命延伸の推進
- 移住定住を促す若者や子育て世代に魅力ある機能の充実

コンパクト
シティ

集う

(2) 構想のイメージと周辺都市機能



(3) 羽咋駅周辺地区の課題から見た将来必要とされる都市機能

①密集するまちなかの災害時の避難空間確保が求められている。

- ・長年放置されたままのマルシェ跡地活用
- ・親水空間を考慮した安全・安心な長者川の河川改修
- ・防災機能を兼ね備えたくつろげる空間づくり
- ・避難所機能を兼ね備えた防災機能の整備

②賑わいと魅力が失われ、活気やコミュニティが衰退している。

- ・羽咋駅周辺整備による「まちなか」の賑わいと魅力の創出
- ・多世代が集える支え合い活動の場となる交流機能の整備
- ・子育てしやすい環境と学習機能を備えた整備
- ・まちなかの賑わいと魅力を創出する商業機能の整備
- ・沿道の活性化や利便性を図る都市計画道路の整備
- ・観光情報発信の充実
- ・鉄道の玄関口として誰もがくつろげる景観の整備

③都市機能の集積

- ・将来を見据えた交通ネットワークや歩いて暮らせる商業施設、住宅施設などの都市機能の整備
- ・生活習慣病予防や健康寿命延伸のための健康増進機能の整備
- ・老朽化した公共施設の集積により、「子育て支援機能」「教育機能」「健康増進機能」「防災機能」「地域コミュニティ機能」の都市機能の充実を図り、賑わいを創出

(1) マルシェ跡地活用

① 交流機能

【整備方針】

- 市内の子どもたちが誰でも利用できる施設として、子育て支援機能を集積し、子育て支援の拡充と交流の場の充実を図る。
- 図書コーナーや学習スペースなどを備えた、多様な学習機会を得られる教育機能の充実を図る。
- 多世代が集える地域コミュニティ機能の拠点とし、賑わいをもたらす。
- 生活習慣病予防や健康寿命の増進を図る施設として、健康増進機能を集積し、健康なまちづくりを推進する。
- 将来を見据え歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを目指し、都市機能を集積する。

整備イメージ：屋内広場・学習スペース・運動スペース・多目的ルーム等

② 広場機能

【整備方針】

- まちなかの災害時避難空間の防災機能を持たせ、安全安心なまちづくりを推進する。
- 地域コミュニティの場やイベント広場として整備し賑わいをもたらす。
- 敷地内の駐車場活用を主として、駅周辺利用者のための駐車場として活用、利便性を図る。

整備イメージ：イベント広場、緑地、駐車場等

③ 商業機能

【整備方針】

- 敷地内の一部は意欲ある商業者の用地として活用し、まちの賑わいの創出を図る。
- 商業施設等の誘致や企業立地支援制度等の検討
- 観光情報発信機能の充実

整備イメージ：生活用品、軽食、カフェ等

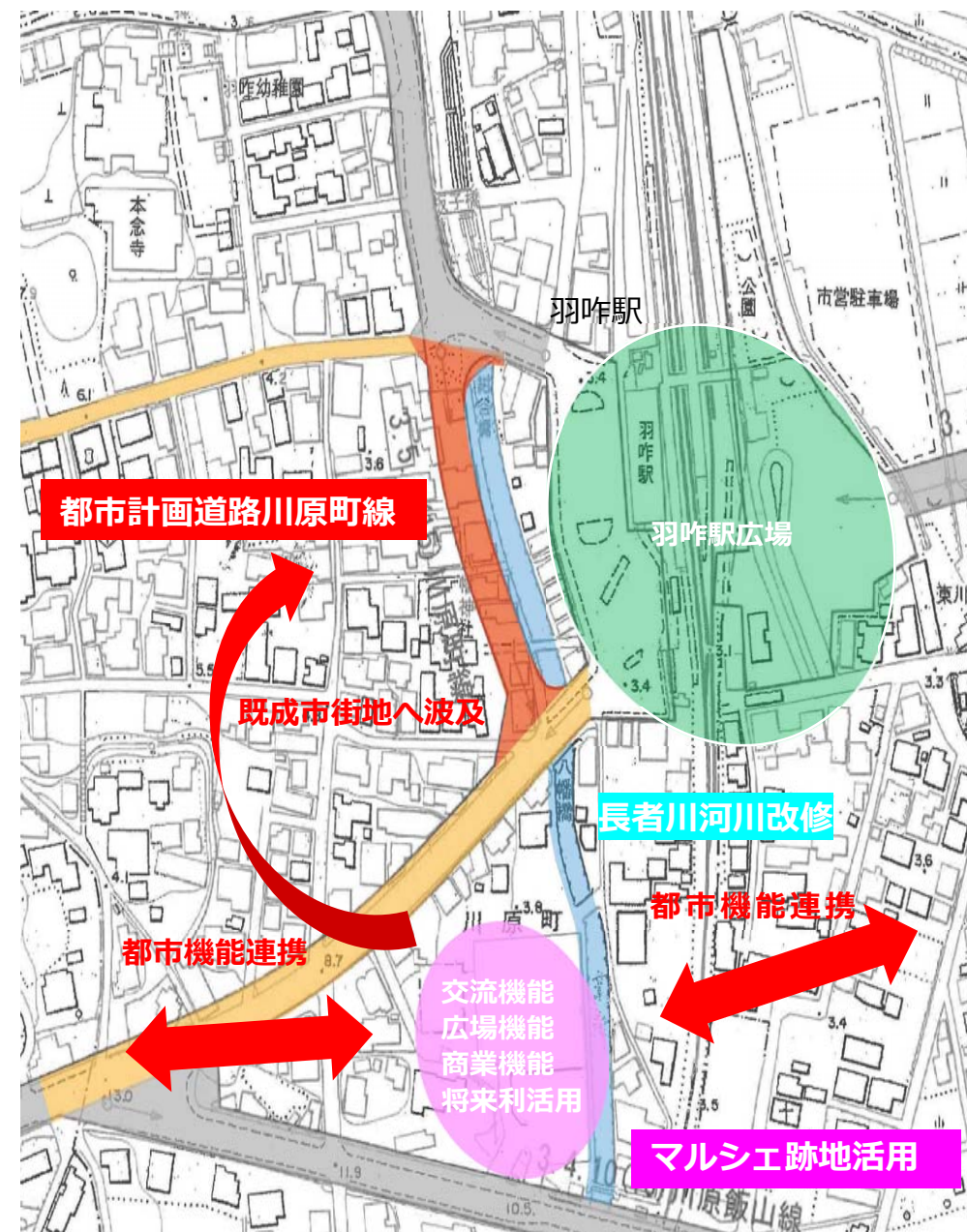
④ 将来利活用

【整備方針】

- 今後の高齢化社会に対応した、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを目指すため都市機能集積用地として確保
- 地域コミュニティの機能や住宅施設、商業施設等の機能配置など都市機能の集積を検討
- 商業施設等の誘致や企業立地支援制度の検討

整備イメージ：公共施設、商業施設等

～整備イメージ～ マルシェ跡地・長者川・川原町線



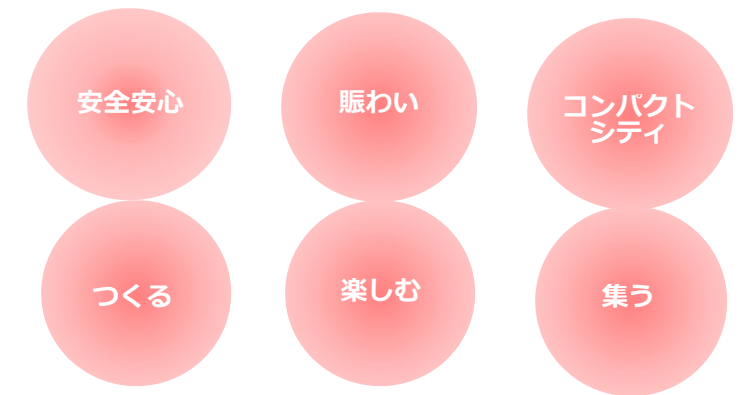
マルシェ跡地イメージ



屋内広場



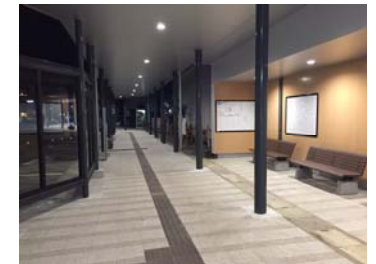
コミュニティ空間による賑わい



駅周辺整備状況



駅西ロータリー整備済



駅西アーケード整備済

(2) 長者川河川改修

【整備方針】

- 住民には、ゲリラ豪雨等による浸水災害を心配する声が多く、早急に河川改修整備が必要である。災害予防や安全安心な暮らしの確保が図られるよう事業要望を進める。
- 長者川河川改修では、安心安全な川づくりを進めるとともに、駅前通りやマルシェ跡地に近接することから、河川の水辺の良さを活かした“憩いの水辺空間づくり”を検討する。

長者川・川原町線イメージ



安全安心な河川（長者川下流）



道路の利便性と沿道活用

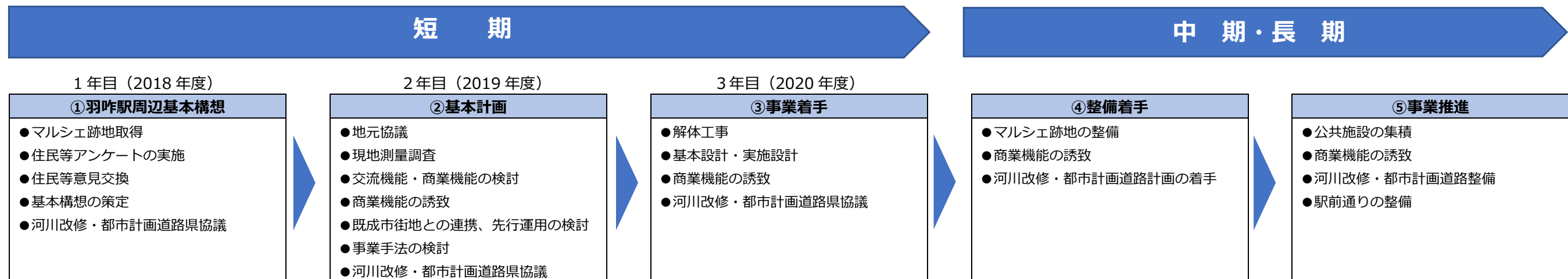
(3) 都市計画道路川原町線

【整備方針】

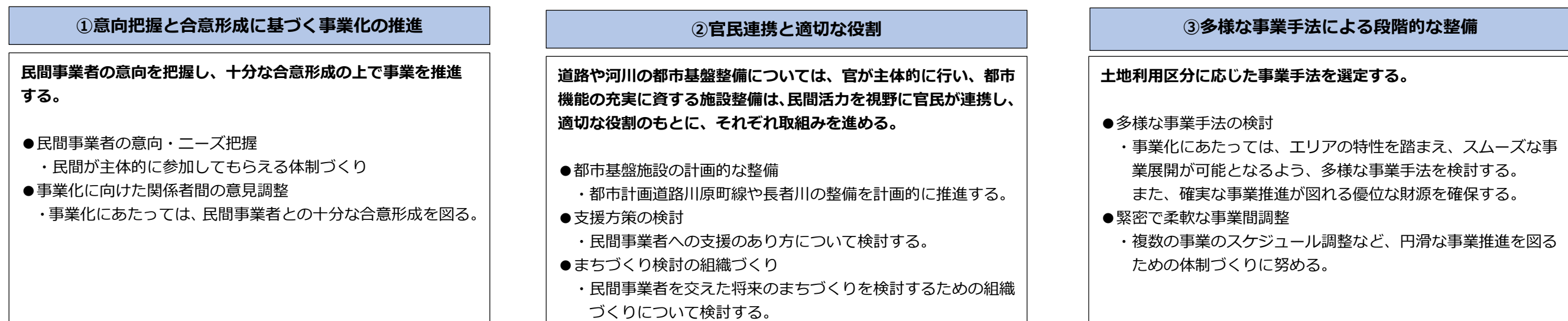
- 都市計画道路川原町線は、マルシェ跡地と連携し、河川改修と一体的に整備し、駅西のメイン通りとして商業者などの沿道活用を促されるよう整備を進め、まちなかの活性化をめざす。

4 今後のスケジュール・方向性

(1) スケジュール



(2) 構想の具体化に向けての方向性



(3) 駅周辺整備を推進するための課題

- | | | |
|---|--|---|
| <p>①駅周辺の交通利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県との連携による地域を結ぶ幹線道路のネットワーク整備 ・生活道路における歩行者等の安全確保 ・羽咋駅に接続する道路の整備 ・公共交通ネットワークの充実 | <p>②駅周辺地区と市内の都市機能との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅は「都市の交流核」とし重要な役割を持っていることから都市全体として駅の役割を整理 ・車の玄関口である千里浜インター周辺と鉄道の玄関口である羽咋駅周辺との連携 ・マルシェ跡地を地域交流拠点とした既成市街地への波及 | <p>③周辺土地利用の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルシェ跡地を有効活用するための県道沿いの用地取得の検討 ・市道羽咋 286 号線（旧国道 415 号）からのアクセスの検討 ・高低差のある土地利用の検討 |
|---|--|---|

(4) 地域活性化による成功事例

- ①ケース A（人口 3 万 4 千人）**
「消費を目的としない人を集める」というコンセプトにより多様な官民連携手法により官民複合施設を整備し、取得後 10 年以上放置された町所有地である駅前に年間 80 万人以上が訪れるようになり賑わいを創出している。
- ②ケース B（人口 11 万人）**
市所有地（百貨店跡地）において、官民連携による子育て支援施設やカフェ等との複合施設を整備しまちの賑わいを創出している。
- ③ケース C（人口 6 万人）**
「家族が絵になる図書館」をコンセプトとしたカフェ等との複合施設を整備し、指定管理者制度の活用により民間のノウハウを最大限に活用し活性化を図っている。
- ④ケース D（人口 2 万人）**
まちなかの空き地であった病院跡地に、観光客だけではなく市民も集まる「食」の賑わいを拠点としたマルシェ（市場）を整備し、中心市街地の賑わい復活させ、周辺商店街への波及効果が大きく表れている。
また、民間主導で地域住民、商業者のコンセンサスを得ながら事業を進め、行政が一等地を軽減賃料で賃貸するなど、官民一体となった体制で事業を推進。

(5) 地域活性化のキーワード

- ①多様な官民連携手法
- ②官民複合施設
- ③公有地活用
- ④民間主導
- ⑤民間のノウハウ活用
- ⑥住民・商業者のコンセンサス
- ⑦子育て世代が集う施設
- ⑧まちの賑わい
- ⑨中心市街地の賑わい
- ⑩軽食やカフェ等との複合施設
- ⑪「食」の賑わいを拠点

5 マルシェ跡地利活用方策比較検討

凡例： ● メリットが大きい ○ メリットがある

		【パターン1】 交流機能	【パターン2】 交流機能(商業機能複合)	【パターン3】 公園機能	【パターン4】 公園機能(商業機能複合)	【パターン5】 商業機能
事業主体		公民連携（市主体）	公民連携（民間主体）	公民連携（市主体）	公民連携	民間
導入機能イメージ		 子育て支援機能 教育機能 健康増進機能 広場機能 防災機能 商業機能	 子育て支援機能 教育機能 健康増進機能 広場機能 防災機能 商業機能	 子育て支援機能 広場機能 防災機能 商業機能	 子育て支援機能 広場機能 防災機能 商業機能	 商業機能 食品スーパー、ホテル等
	概要	・子育て世代を中心に多世代が集えるコミュニティの拠点とする。 ・まちの賑わい空間を創出する。	・子育て世代を中心に多世代が集えるコミュニティの拠点とする。 ・まちの賑わい空間を創出する。	・防災機能を備えた公園を整備し、安全安心のまちづくりを進める。 ・まちの賑わい空間を創出する。	・防災機能を備えた公園を整備し、安全安心のまちづくりを進める。 ・まちの賑わい空間を創出する。	・商業機能の整備によりまちの賑わい空間を創出する。
	メリット・デメリット	●子育て支援機能＋教育機能＋地域コミュニティ機能＋商業機能の必要性が高い	●子育て支援機能＋教育機能＋地域コミュニティ機能＋商業機能の必要性が高い	○子育て支援機能＋商業機能の必要性が高い	○子育て支援機能＋商業機能の必要性が高い	○商業機能の必要性が高い
		●コンパクトシティ化に寄与	●コンパクトシティ化に寄与	○既存都市公園の集積の検討が必要	○既存都市公園の集積の検討が必要	●コンパクトシティ化に寄与する
事業手法	事業手法	●公共の政策意図を反映できる	●民間のノウハウにより賑わい創出が可能	●公共の政策意図を反映できる	●民間のノウハウにより賑わい創出が可能	●民間のノウハウにより賑わい創出が可能
	概算事業費	初期投資 約9億円 (建物解体、建物・広場整備等) 公共施設の集積により 維持管理費削減	初期投資 約11億円 (建物解体、建物・広場整備等) 公共施設の集積により 維持管理費削減	初期投資 約4億円 (建物解体、広場整備等) 公共施設の集積により 維持管理費削減	初期投資 約5億円 (建物解体、広場整備等) 維持管理費削減可能	初期投資 約3億円 (建物解体等) －
財源		都市再構築事業、過疎債	都市機能立地支援事業	都市再生事業、減災防災債	都市再生事業、減災防災債	－
事業手法及び官民の役割		直営、定期借地方式など 市：既存建物解体 公共機能整備 民間：商業機能整備	PFI、定期借地方式など 市：既存建物解体 民間資金の一部を支援 民間：公共機能、商業機能整備	直営、定期借地方式など 市：既存建物解体 公共機能整備 民間：商業機能整備	PFI、定期借地方式など 市：既存建物解体 公共機能整備（民間整備可） 民間：商業機能整備 公園管理運営	貸付け、定期借地方式など 市：既存建物解体 民間：商業機能整備

6 マルシェ跡地利活用検討イメージ図（案）

